

- タウン情報 -

2020

きくがわ 10

Vol. 173



食欲の秋

今回の表紙は、タウン情報きくがわ編集部員が各々でお弁当を持ち寄って撮影したものです。このコロナ禍のなか、「やっぱり食べるのが1番の楽しみじゃね」との結論になった私たち。菊川公園の秋の紅葉を見ながらお弁当を広げたつもりで、美味しくいただきました。

タウン情報きくがわ編集部は月に1度集まり、和やかな雰囲気の中、タウン情報きくがわの発行に向けての話し合いや作業をしています。興味のある方は菊川市民センターまでご連絡ください♪ (☎ 0834-62-2801)



■ 主な掲載内容

- 菊川のひと「鍛冶原武さん」 …P2
- 菊川深訪「東北の秋は黄金色」 …P3
- みんなの食堂 …P3
- お知らせ「総会開催」 …P4
- わが家のペット大集合 …P4

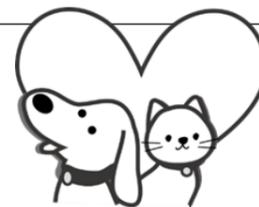
タウン情報 きくがわ (173号)

2020年10月1日発行

発行 / 住みよい菊川をつくる会 問合せ / 菊川市民センター 〒746-0082 山口県周南市大字下上2146 ☎ 0834-62-2801 ✉ kiku-ko@city.shunan.lg.jp

わが家のペット

大集合



菊川のかわいいペットを集めました！掲載可能な写真がありましたら、一言コメントを添えて、編集部(菊川市民センター内)にまでご連絡ください。常時募集中♪

● ナナちゃん - 5歳メス

おとなしい性格ですが最近は少しイライラ、ステイホームの影響かしら…。



● どうちゃん(上)&ちよこちゃん(下)

- 14歳メス

わが家に来て14年。タライのお家です。脱走するけれど、呼んだらこっちへ来ます。



お知らせ

住みよい菊川をつくる会 総会開催

7月23日(木)に、菊川小学校体育館にて住みよい菊川をつくる会の総会を行いました。総会は代議員制としており、菊川地区内の各自治会長に出席いただきました。例年4月下旬に菊川市民センターにて開催する当会の総会ですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、時期や会場を変更して開催しました。

当会の昨年度の事業報告や決算報告、今年度の事業計画や予算、役員を選任について承認を得ました。また、新型コロナウイルス対策として、菊川まつりの不開催が決定され、その他の事業についても今後の情勢と照らし合わせながら開催の可否を決定することとしました。

例年行う事業の中止に伴う余剰金については、新しい生活様式に合わせた新たな事業や、今後菊川地区に必要な防災に関する機材等の購入に使用します。また昨年度に引き続き、菊川地区の「夢プラン策定」に向けて活動をしてまいります。菊川地区夢プラン策定に関する情報は別紙の増刊号をご覧ください。



■ 数字で見る菊川 (8月末の人口等)

世帯 3,321 世帯 / 人口 7,914 人 / 男 3,839 人 / 女 4,075 人

菊川陶芸教室

鍛冶原 武 さん



シニアフェスティバルで特別賞を受賞した花器を持つ鍛冶原さん。

今回は、上下在住の鍛冶原武さんにインタビューしました。鍛冶原さんは、長年「菊川陶芸教室」で活躍されています。

「陶芸を始めたきっかけを教えてください。」

平成8年に入会してから、ずっと陶芸に親しんできました。退職後、家でゴロゴロするよりは趣味が必要だと始めたのがきっかけです。以前は芸術家になった気分で、粘土20キログラムを使つての大型作品にも取り組み、シニアフェスティバルや市美展で賞を取ったこともあります。

陶芸の魅力は、いつでもどこでもできることですね。続ければ自分なりの型ができてきますし、2度と同じものはできません。思いどおりに焼きあがった時の喜びは計り知れません。

「陶芸教室での活動内容を教えてください。」

毎月第1と第3月曜日に、菊川市民センターにて陶芸を行っています。現在は男性6名、女性9名で活動しており、若い方だと40代の

方がいらつしやいます。同じ趣味を共有した仲間と一緒に食べる昼食やコーヒーは格別の味です。この夏は、子ども向けの陶芸教室も開催しました。子どもの獨創性には舌を巻きます。菊川地区は、市民活動が盛んでいいですね。なお、菊川陶芸教室では新規の参加者を募集しています。まずは、菊川市民センターまでご連絡ください。
(☎0834-62-2801)

「鍛冶原さん、どうもありがとうございます。」



菊川陶芸教室の皆さん（一部）



菊川 深訪

第42回 東北の秋は黄金色

新型コロナウイルスの為に、秋に旅行をすることは難しいそうなので、絵画を見て、想像してはどうだろうか？それも、本州の西端から、北端の青森県である。幕末の吉田松陰も脱藩して、青森県へ旅に出て、更に北端 北海道が見える竜飛岬を訪れている。北方に出没するロシアの防衛の為、津軽海峡を通過するロシア船を見に行った。現在は、その海峡を「北海道新幹線」が通り、竜飛岬からトンネルが掘られている。

東北のイメージは、「平泉の金色堂」の黄金色であろう。奈良の大仏は、東北で金が発見されることで完成した。銅は、山口県の長登銅山から産出したが、金は輸入品であった為、渡来人が東北で金探しをして、宮城県の黄金山神社付近（涌谷町）で発見し、黄金900両を献上した。現在その町では、観光用に川砂から砂金を採取する施設がある。

東北には現在 大きな金鉱山はないが、秋になると黄金色の山や溪谷がある。その景色を自然木のキヤンバスにして、絵にした人が、下上上野（山田工務店）の山田佳民さんである。題名は「十和田湖の奥入瀬（おいらせ）溪谷」（平成8年5月）である。その作品は、菊川市民センターの玄関口の壁に



十和田湖の奥入瀬溪谷

飾られている。私も昔 秋に訪問し、その美しさに魅せられたので、山田さん宅を訪問した。この絵の経緯をお聞きする予定であったが、既に故人であった。旅行されたのは、もう25年も前とのことであったが、その光り輝く黄金色の景色は、観光客を感動させる色である。絵に描かれている川の流れは、静寂な溪谷に軽快な音を立てて、滝や岩を越えて、変化のある流れを形成している。また、水の清らかさと共に出来る泡の為に、牛乳の様な白さが、紅葉を一層美しく見せている。山口県出身の歌手「山本譲二」は、「みちのくひとり旅」で有名であるが、この「奥入瀬」という曲も歌っている。



みんなの食堂

8月9日(日)に、「みんなの食堂」という団体による、申し込みした方に対し、一食200円で、バランスを考えた季節のお弁当を提供する事業が行われました。この会の設立目的は、地域の人誰でも集える居場所を提供し、将来的に異世代間で気軽に助け合いが行われる環境をつくることにあります。今までは、向土井自治会館を会場として、異世代間で食事を楽しみながら交流を図る取組を行ってきました。今回は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、菊川中学校ジュニアリーダーの協力のもと、お弁当の作成、配布事業に切り替えました。菊川中学生がお弁当を取りに来た地域住民と言葉を交わす姿は、異世代間のつながりが強くなる様子そのもののように感じました。